

日時：平成26年3月28日(金)14:00 - 29日(土)11:30

場所：KKR 水上・水明荘 会議室

ゲスト講師：倉辻忠俊氏、倉辻孝俊氏

1. 「国際医療協力と保健医療政策」：倉辻忠俊氏（3月28日(金)14:00 - 15:30）

倉辻氏が行ってきたタンザニア、パプアニューギニア、ベトナムなどでの医療支援活動について講演があった。以下は同氏による要旨である。

グローバル化が言われて久しいが、この20数年はその中心が「地球家族としての平和」から外れ、経済分野に偏向してきている。健康が人間にとって何故経済問題よりも大切なのか、平和の前提である基本的人権の一つとしての人間の健康問題について、アジア、アフリカ、中南米などの発展途上国といわれる国々で学んできたことを基に、国際医療協力のあるべき姿をお話する。また健康獲得・維持のためにはどのようにして保健医療政策を提案するか考えたい。

講演後に、支援活動の母体、医療水準の向上と人口問題との関係、民間療法の問題、飲料水の処理法などについて質疑があった。

2. 「専門研究会について」：菅沼・松浦（15:40 - 16:00）

菅沼氏と松浦氏から、それぞれ「エネルギー倫理」に関する研究会と「老人の生き方（仮称）」に関する研究会のこれまでの活動状況について報告があった。今後については、前者では、環境関係等にテーマを広げる可能性、後者では自立型老人施設の見学などが検討されているとのことであった。

3. 「ウズベキスタン訪問記」：岡田（16:00 - 17:00）

岡田氏から、昨年11月のウズベキスタンへの旅行について説明があった。イスラム文化圏ながら、東西交流と複雑な支配の歴史があり、人種的にも多様とのことであった。遺跡の保存の仕方や韓国の影響などについても説明があり、関連する議論が行われた。

4. 「宗教的観点から見た経済活動」：倉辻孝俊氏（3月29日(土)9:15 - 10:45）

宗教と経済活動との関係の歴史について倉辻氏による講演があった。旧約聖書、宗教改革者、アダム・スミス、マックス・ウェーバー、ラインホルド・ニーバー、最近のローマ法王、カール・バルトなどの見方等が紹介・検討された。また現代のいわゆるグローバル経済活動に関する問題指摘もあった。以下は同氏による要旨である。

現代の資本主義経済は金融に支配され、株式を公開した会社が資本を投資した株主のために事業を行い、利潤を最大限にするためには手段を厭わない。一般市民は労働者として製造或は営業を担当し、かつ商品を買う消費者にしか過ぎない。

資本主義はその名も付かない古い時代から活動としてあったが、特に産業革命によって急速に発達し

た近代資本主義は、英国から始まり、世界大戦以後米国に主導権が移ったが、これら欧米は主としてキリスト教国であり、しかもプロテスタントである。そのあまりの非人間性に対して抵抗しているのは、主としてカトリック勢力である。また今でも利息を認めていないイスラム教国では、独自の経済活動をしており、新自由主義経済推進者達はこれをも「非民主的」として破壊しようとしている。

これらを推進している基になる考え方はどこから来るのであろうか？人間として生きる基になる「宗教」の観点から考察を試みた。

講演に関連して、宗教が経済活動の正当化に使われることの問題などについて議論が行われた。

5. 「気とは」: 伊東 (10:50 - 11:20)

伊東氏から智能気功について入門的な説明があり、その後、同氏の指導のもと実習が行われた。体を動かしながら周辺にある「気」を取り込むということであった。

以上